

# 愛の便り

校訓: 志が人生を創る

雲仙市立愛野中学校 学校便り

令和6年 7月17日

第93号

文責 (校長; 末永栄喜)



## 「いのち」とは未来のこと。教育週間後の道徳授業

つまり、残された「時間」をいかに大切にするかです。

教育週間が終わった翌週の10日(水)、1年生2クラスにお邪魔して昨年度の講話内容をもとに道徳の授業を行いました(原先生の校内初任者研修も兼ねて)。

テーマは「いのち」ですが、今回その切り口は「こころ」から入りました。授業の冒頭で紹介した言葉が見出しの言葉です。これは、医者である日野原先生が小学生に対しておこなった「いのちの授業」の中で語られた言葉です。

次に私自身が大切にしている「三つの心」~あったかい心 強い心 そして美しい心~を紹介した後、本題に迫っていき



ました。授業でいう「承」の部分は、ゲーム感覚で「『心』が付く漢字をなるべくたくさん書きだしてみよう」と投げかけました。

## 「忌」や「忸」、それ以外もOK

それぞれ個別で考えた後、周囲の友達とも相談しながら一つでも多くの漢字を書き出そうと子どもたちは必死でした。最高で27個挙げた生徒もいました。

その中から、いくつか体の部分と関係のある漢字を取り上げ、その成り立ちを紹介して心は体のあちこちにあることを確認しました。



腰塚 勇人さん

そして「深」(展開後半)では、腰塚勇人(こしづかはやと)さんを紹介しました。体育教師として現役バリバリの頃、スキー事故で首の骨を折った腰塚さん。懸命のリハビリの末、身体に障害を残しながらも4ヶ月で現場復帰し、再び教壇に立つことができた人です。

復帰を支えた背景には、「神様は自分を殺さずに生かしてくれた。生かされた命を自分のために人のために使いたい。」「命の尊さ。命の大切さ。仲間の大切さ。生きることの素晴らしさを伝えたい。」という強い思いがあったそうです。その腰塚さんが学校に復帰するときに立てた「五つの誓い」を紹介しながら、本時のねらいに迫っていきました。その誓いとは、

一、「手足」→人を助けるために使おう

二、「耳」→人の言葉を最後まで聴いてあげるために使おう

三、→「目」人のよいところを見るために使おう

四つめと五つめは、子どもたちに考えさせました。いくつか紹介します。

「口」→人に優しい言葉をかけるために使おう、人に良い言葉をかけるため、人を想うため、人をほめたりなぐさめたりするため、人のいいところを相手に伝えるため、...

「頭」→人の気持ちを考えるために使おう、頭を使って困っている人がいたら助けるために使おう、...

「顔」→笑顔で人を明るくするために使おう、たくさんの人を笑顔にできるようにしたい。

「首」→人のために周りを見て行動するために。

「心」→人の気持ちを分かち合うため、人の気持ちに共感するために使おう、人を思いやるために使おう、...

子どもたちの予想はいかがでしょうか。当たらずとも遠からずの答が多く見られ、なるほどそうかとこっちも頷くほどでした。柔軟な考えができていくことに感心しました。

さて、腰塚さんが立てた誓いの四つめと五つめは、

四、「口」

→人を励ます言葉や感謝の言葉を言うために使おう

五、「心」

→人の心の痛みがわかるために使おう

でした。

授業後の感想をいくつか紹介します。

○心が付く漢字には一つ一つ意味が込められていて、その時に応じて使う漢字を変えること、同じ人間でも考えることが違うこと、腰塚さんは他の人にも優しく接しているいい人だと思った。

○五つの誓いはすべて「人のために」と書いてあって素敵だなと思いました。自分も人のためにこの誓いを参考にしながらこの先の人生を歩んでいきたいなと思いました。

○命は心で、心は思いやりだと考えました。

○友達の悪いところばかりではなく、良い面もみつけられるようにたくさん周りを見て行動できるようになろうと改めて思いました。(サイコロと同じ)

○命とは何なのか。それは心臓ではなくて時間や未来、あるいは心が命だということを知って、これからの時間や未来を大切にしていきたいと思えます。

○命は未来(時間)のことだから、これから先のことを考えて楽しい学校生活を送ってみたい。

○自分も完ぺきにはできないかもしれないけど、ふだんから意識して生活していきたいと思えました。

○「五つの誓い」を聞いて、自分はできているか考えてみました。あまりできていないところがあり、これからは「五つの誓い」をもとに生活していきたいと思えました。

○いつ命がなくなるかわからないから、今生きていることに感謝して、明るい未来のために頑張ろうと思えました。



自分のために時間を使うだけでなく、自分以外の人のためにも時間を使うような「いのち」の在り方を考えられるようになってほしいと思います。

日野原先生が書いた『いのちの授業』という絵本のあとがきに、次のように書いておられます。

人が生きていく上で、もう一つ大事なことがあります。それは「こころ」です。お互いに手をさしのべあって、いっしょに生きていくこと。こころを育てるとは、そういうことです。自分以外のことのために、自分の時間を使おうとすることです。

「いのち」や、いのちをどう使おうか決める「こころ」は見えませんが、見えないものこそ大切にすべきです。空気は見えませんが、人が生きるのに大切だということに似ています。自分のもっている自分の時間、それが自分のいのち。きみたちはこれから、そのことをよく考えて生きていってほしいと思います。